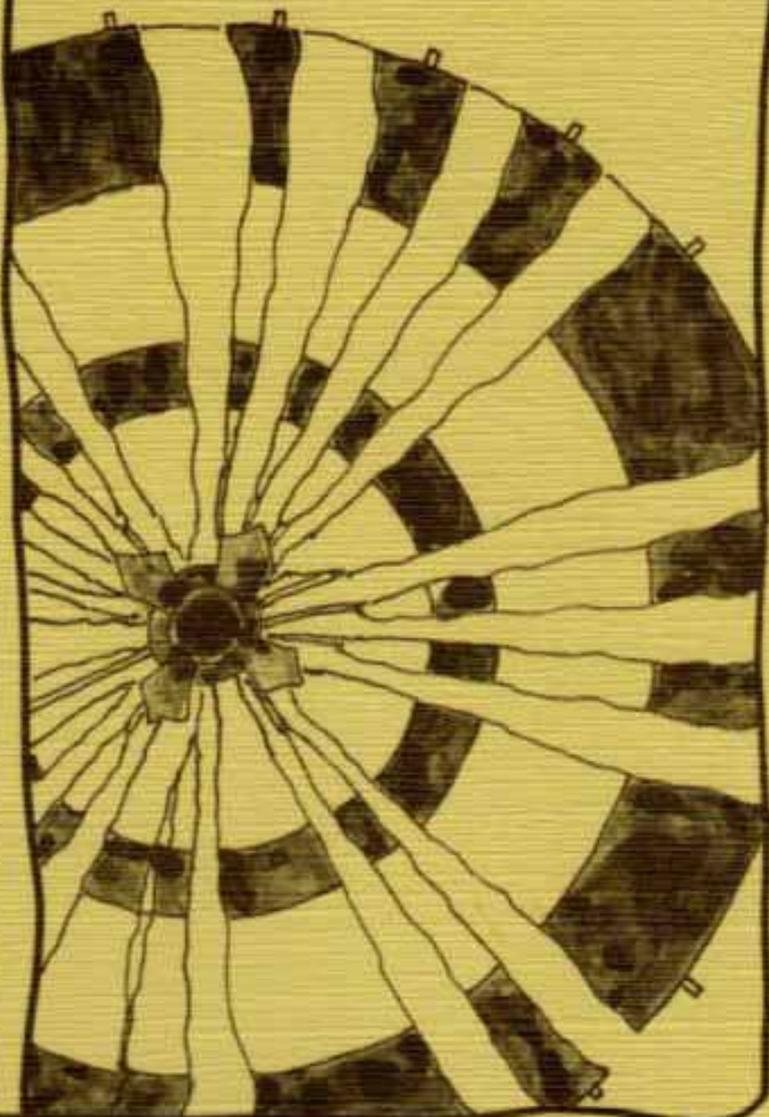


やぶれ傘



一三二号
二〇二三年四月

にはとりのこゑを近くに葱坊主	根橋宏次
花層の二個目の小山出来上がる	きくちきみえ
自転車置き場に二台草萌ゆる	大島英昭
「昼」にする陽炎ゆれてゐる古墳	丑久保 勲
母と子がボール蹴りあふ犬ふぐり	廣瀬雅男
コーンスープ買ってミモザの下の椅子	青谷小枝
正門の右に潜り戸木瓜咲いて	瀬島酒望
梨の花咲いてほんやり昼の月	藤井美晴
雲かぶる丹沢山地母子草	渡邊孝彦
鴟尾辺りよりふはり黄の初蝶来	安藤久美子
恋猫や土手の石段下りてくる	天野美登里
どの畝も長い直線麦青む	白石正躬
ワイパーで時折ぬぐふ春の雨	秋山信行
ボクシングジムに人影春の雪	小山よる
酒蔵の醪 <small>もろみ</small> ふつつ二月来る	有賀昌子

抄 集 句 傘 紀 大 崎 ぶ や

奥山の三角点に春の雪	柴崎和男
箱書きは父の筆跡雛飾り	高橋宜治
縮緬の端切れあれこれ吊し雛	貫井照子
あたたかや足場を外す鉄の音	中島和子
昼飯の後の眠気や春立つ日	村田 武
釣舟の増えたる日なり菜花咲く	山本久枝
春立つ日ひと駅前で降りてみる	吉田幸恵
手を握りしめて見守る野焼かな	浅嶋 肇
チューリップ花壇の縁の赤レンガ	泉 一九
足伸ばす布団の奥に猫がある	伊藤 薫
靴裏に下萌え感じランニング	江口恵子
薄氷に穴あいてゐる今日の朝	木村瑞枝
大泣きをする子が通る初桜	倉澤節子
まぎれなき友の筆跡寒見舞ひ	黒澤次郎
裏布のすこしひんやり春コート	小泉里香

風やまぬ夜はおでんで早仕舞ひ
寒椿白一輪の残りゐる
蠟梅の葉のなし枝に花薫る
春立つや机上に地図と時間表
駿河湾越しに見る富士春夕焼
伊豆に来て河津桜と吊るし雛
老梅を残し新築一戸建て

坂本和穂

佐藤稲子

父を真似後ろ手にして麦を踏む
特売の公魚ひかる旅の中
飛び石のひとつひとつに春の雪
鳴き声は下枝に三羽四十雀
うららかな岬の道は灯台へ
溶岩の流れし跡の冴え返る
春昼の桜島には素十句碑

眞田忠雄

冬田晴げんげは小さき芽を出して
夜の風に吹かれてをりぬ寒椿
叩きかけて台座も磨き初閻魔
道代へてこんなところにいぬふぐり
仁術の家では「よた」と兜太の忌
どんど焚く日露戦役石碑前
残り鴨一羽のつくくる大水脈

柴崎和男

奥山の三角点に春の雪
雪解みち融けざるところ選りていく
ヒヤシンス置かれし窓の朝日かな
ぼらの芽は季節通りに無人駅
蒨味噌をメのむすびにちよんと乗せ
パソコンの線の蠢く春半ば
ペランダに春菜植ゑたるプラントー

高橋均

初日記二行五文字でことたりて
晩酌は二合と決めて露の臺
昼酒をほんの少々春立つ日
ぶらさがる絵馬の重なり春の雨
逃水をぼうと見てゐる交差点
春泥の靴そのままで客となる
納豆をかき回しをり落第子

高橋宜治

うとうとと読書の外や日向ぼこ
ぱちぱちと野焼きの音のせまりくる
潮風のほひのまじる桜かな
さまざまな顔、顔の卒業式
箱書きは父の筆跡雛飾り
遠足の列なす子らの弾むこゑ
小気味よき屋台歌舞伎や春祭り

竹内文夫

古書店の立ち読み長し春隣
たはむれに植ゑしアボカド立ち枯れて
大寒の歩道橋へと星を見に
妙齡の現場監督春一番
歩道橋に足跡はなく春の雪
梅東慶寺一枝手向ける御仁秀雄の忌
和菓子屋に並ぶスイーツ春めいて

中島和子

手の窪に錠剤ふたつ冬の朝
八十路には八十路の歩調ふきのたう
笹舟に手波を送る春の川
病衣たたんで春光へまづ一步
めぐるバスひとつ見送り芹を摘む
あたたかや足場を外す鉄の音
幼子に指をにぎられ春の昼

貫井照子

雪道のペンギン歩き児に学ぶ
一輪の臘梅くはへ鳥は枝に
大寒の指に血豆を作る朝
切りとりし梅の小枝をテールに
縮緬の端切れあれこれ吊し雛
日のあたる裏山の径露の臺
シーソに親子の声が草青む

野口希代志

山門へ続く坂道やぶ椿
大寒の門扉に掛かる回覧板
蠟梅の香は何処より石畳
春日射し踊り場で飲む缶コーヒ
花のなき古木に一羽ぬる目白
下萌や鳶飛びまはる昼餉時
ホツカイロ背中にひとつ冬の山

萩原溪人

温室の戸口に匂ふ梅の花
立春の庭に転がる豆十粒
掌のごとき棕櫚の葉春一番
仕舞屋の軒端に咲きし福寿草
薄ごぼりの割れ目を鯉の背鰭行く
ポケットの多きズボンや青き踏む
別所沼の四温の真昼カフェのパフェ

萩原久代

宿毛湾の潮風浴びし文旦来
三寒や現状維持と遠き友
芝を焼く種火トントン置いてゆく
友訪ね庭の明るきしだれ梅
けふもまた梅咲く道を歩きけり
盆梅をレジ横に置く和食店
春めいてベッドの上で一・二・三

にこやかかに一輪咲きし福寿草
春立つつて花籠届く誕生日
气温差の激しき二月家籠り
春は名のみ九十五回の誕生日
ふくらはぎに電気治療器浅き春
床屋帰りに首より引いた春の風邪
足かばひひ菫花壇に一休み

橋本美代

濱野新

髪切つたと孫からメール春近し
啓蟄の野を駆け回る子供かな
レクサスが駐車する家ミモザ咲く
諸々の木々の芽生えの賑やかに
綿雲がふはりと浮かぶ春の空
戸締まりの空を仰げば春の月
蟄居して一日過ぎす春の雨

広瀬 濟

廃校の鉄棒に大根干され
駄菓子屋を囲む自転車日脚伸び
五つ珠算盤弾く春の暮
齒科女医の睫間近くに寒の明け
濡れ縁に座蒲団を敷き日向ぼこ
春風や日に日に狭くなる歩幅
春近しドア全開のドーナツ店

増田裕司

日がさすや雪吊りやたら眩しくて
孫の歯が生え変はるとや古希の冬
寒夕焼歌声ひびく幼稚園
改めて今年は如何に小正月
早春の干し布団より日のほひ
雛人形出さずに暮るる節句かな
満開の梅の香を吸ふ朝一番

海 見 える 頂 に 立 つ 春 日 傘
娘 に ち よ つ と ス ニ ー カ ー 借 り 春 の 旅
モ ロ ッ コ の 孫 に 届 け る 雛 か な
誰 に で も 手 を 振 る 幼 春 帽 子
う ら ら か や 研 ぎ 物 講 座 申 し 込 む
暖 か や 尻 尾 振 り 合 ふ 犬 同 士
杏 植 う 光 の 届 く 庭 の 隅

道林はる子

箕田健生

シ ャ ン シ ャ ン が 去 り し 上 野 に 寒 桜
軒 下 に し た た り 落 ち る 雪 解 水
白 梅 の ほ の か な 香 り 庭 に 満 ち
赤 帽 の 園 児 ら が 行 く 春 う ら ら
白 木 蓮 空 に 向 か つ て 咲 き に け り
木 瓜 の 花 真 赤 に 咲 い て 庭 の 隅
雪 柳 左 右 に 風 を や り 過 ご し

こ こ ま で と 言 ひ つ つ 作 句 山 笑 ふ
ゆ く 雲 を 指 さ す 二 月 来 た り け り
蝸 蚪 生 ま る し や が め ば 並 ぶ 膝 頭
指 切 り の あ と の 沈 黙 鳥 帰 る
陽 炎 に 犬 も 一 緒 に 入 り ゆ く
水 温 む 探 鳥 会 の ぞ ろ ぞ ろ と
夕 暮 れ の 春 待 つ 衿 を 合 は せ け り

武藤節子

村田武

昼 飯 の 後 の 眠 気 や 春 立 つ 日
肴 に は こ れ あ れ ば 足 る 分 葱 ぬ た
卒 業 の 孫 の ス ー ツ を 新 調 す
公 園 の 片 隅 占 め る 苜 蓿
リ ビ ン グ に 嫁 の 生 け た る 桃 の 花
水 の 無 き 調 整 池 に 春 日 差 す
ど れ も み な 流 れ に 傾 ぐ 夜 の 桜

